

助成対象活動報告シート

助成メニュー：構想づくり活動助成

団体名：MACHIKOYA 守山大森

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

<フェーズ1 推進体制の構築>

- ・ R7/6/17、構想キックオフイベントとして金城学院大学との地域包括連携協定を締結し、産学官連携の枠組み構築を目的に、小学校・自治体関係者、大学生等とともにプロジェクトを開始した。

<フェーズ2 地域資源・課題の把握>

- ・ 7/6には、まちあるきイベントとして、3グループに別れて、3エリアを実際に徒歩で歩き、街の魅力と課題をピックアップする調査を実施し、沿線エリアの課題および魅力の可視化を行った。
- ・ 8/24には、親子インタビューとして、夏祭りイベントを実施し、遊びに来た親子20組を対象に「親」「子ども」のそれぞれの視点からの街に関する意見を収集し、多様な主体からの意見収集および合意形成に向けた対話を行った。
- ・ 8/31には、地域対話ワークショップとして、これまでのまち歩き、親子インタビューの素材を元に、地域に居住する多様な属性の方々を招待し、対話型のワークショップを開催した。また、東京都世田谷区の尾山台地区の事例の紹介から、先行事例に学びながら、関係性作りの重要性を学ぶ機会とした。

<フェーズ3 体制強化および実践展開>

- ・ 9/15には、コアメンバーミーティングとして、上記の活動を経て、「地域の関心層」として、従来の運営メンバーに加えた新たなコアメンバーも加入して、ビジョン Ver.1 のブラッシュアップを実施。
- ・ 9/25には、特別出張授業として、天子田小学校6年生向けの授業を実施し、包括連携協定の範囲を地域の小学校・民間企業へ拡大。その後、自治会・教育委員会の視察へも発展した。
- ・ 11/13には、ママ食堂として、地域の関心層として新たに加入したメンバーによる実践的プロジェクトが立ち上がり、子育てママ層を対象にした「繋がり」づくりが新たに始まった。

<フェーズ4 方向性整理およびビジョン確定>

- ・ 11/15には、中間ミーティングとしてビジョン Ver.2 を提示し、メンバーからの意見を集約。
- ・ 12/26には、中間総括および成果共有を実施した。
- ・ R8/2/1には、ビジョンの取りまとめとして、ビジョン Ver.3 および成果物を取りまとめ、最終ビジョンを整理・共有した。



※ この様式は公開されます。

2 活動の成果および目標達成度合い

- ・ 沿線の高校・大学の学生と地域住民等を巻き込んだ構想ワークショップやまち歩きを全 9 回開催し、参加者数累計 229 名を達成。
- ・ アンケート調査およびヒアリングにより、100 名以上の多様な意見とニーズを収集・分析し、地域の課題と期待を把握。
- ・ 構想案を図解・文章でまとめた「未来の大森地区ビジョンマップ」を冊子・ポスター等で制作し、大森金城学院前駅等で配布・掲示。
- ・ 金城学院大学や瀬戸市等と連携した協議体を組織し、次年度以降の実践活動助成申請を見据えた中期的な実施体制の構築。

3 活動により見えた課題

プレイヤー（担い手）に関する課題

- ・ 若者や子育て層など多様な参加は広がったが、継続的な担い手の定着には至っていない。
- ・ また、地域内外の企業が参画しやすい仕組みが未整備で、活動の目的や全体像、意思決定プロセスが分かりにくい。
- ・ 社会的意義への共感は高い一方、個人や企業にとっての成長やリターンが整理されておらず、属人的な関与に依存している。

推進体制に関する課題

- ・ 大学・行政等との連携は進みつつあるが、企業を含めた推進体制には発展していない。
- ・ 多様な主体が関与した際の意思決定や調整の仕組み、企業連携の窓口が明確でなく、継続的な関係構築や中長期的な運営を支える組織基盤が不足している。

事業（活動内容）に関する課題

- ・ 地域課題の把握は進んだものの、事業としての整理や横断的な展開には至っていない。
- ・ 成果が関係性づくりや学びに留まり、企業にとっての関与意義や貢献内容が明確でなく、外部に分かりやすく示せていない。

収益化に関する課題

- ・ 助成金依存の運営となっており、企業連携を通じた自立的な資金循環の仕組みが未確立である。
- ・ 対価設定や制度設計が整理されておらず、運営負担が無償・ボランティアに偏り、継続性や対外的説明に課題がある。

4 今後の活動等の展望

プレイヤー（担い手）に関する展望

- ・ 多様な関心層が段階的に関与し、継続的な担い手へ移行できる仕組みを構築する。
- ・ 企業人材が専門性や経験を生かして参画できる役割を明確化し、活動の目的や意思決定の流れを分かりやすく共有する。
- ・ 個人の学びや企業の人材育成と結び付け、属人的でない関与と、担い手増加後も方向性が共有される仕組みを整える。

推進体制に関する展望

- ・ MACHIKOYA を中核に、大学・行政・地域・企業が役割分担のもと参画する推進体制を構築する。
- ・ 多様な主体の関与を前提とした意思決定・調整の仕組みや企業連携の窓口を明確化し、継続的な関係構築を図る。
- ・ 中長期的な活動継続を見据え、組織基盤の強化や対外的な信用力の向上を進める。

事業（活動内容）に関する展望

- ・ 地域課題やニーズを基に、活動を事業として整理・体系化する。
- ・ 個別プロジェクトを横断的に位置付け、企業連携を含めた展開が可能な事業構造とする。
- ・ 企業にとっての関与意義が伝わる形で成果を整理し、外部に分かりやすく発信する。

収益化に関する展望

- ・ 助成金に依存しない運営を目指し、企業連携を通じた資金確保手段を検討する。
- ・ 協賛・受託・共同事業等の制度設計や対価設定を整理し、人的負担を適切に評価した持続可能な運営体制を構築する。
- ・ あわせて、収益と地域活動の関係性を対外的に説明可能な形で整理する。